

入域観光客統計概況

－平成16年1月分－

沖縄県観光リゾート局

1月の入域観光客数は379,200人。
・前年同月比は△0.2%(△600人)で、同月としては過去2番目の記録となった。

1. 空海路別入域状況

空路：369,600人 前年同月比△1.7%(△6,500人)
海路：9,600人 前年同月比+159.5%(+5,900人)

2. 主要航路別入域状況

東京	159,400人	前年同月比	△4.7%	(△7,800人)	構成比	42.0%
阪神	66,400人	前年同月比	△2.9%	(△2,000人)	構成比	17.5%
福岡	52,800人	前年同月比	+3.3%	(+1,700人)	構成比	13.9%
名古屋	31,500人	前年同月比	△1.9%	(△600人)	構成比	8.3%

3. 概況と見通し

1月の入域観光客数の概況としては、国内客については、旅行商品価格の高い年始期間を敬遠する傾向や海外旅行の回復による影響などにより前年をやや下回った。

外国客については、前年は運航がなかった台湾からのクルーズ船が運航されたことにより海路が大幅に前年を上回り、また、空路についても旅行シーズンである旧正月が1月にあったことなどにより前年を上回り、外国客全体としては大幅に前年より増加した。

この結果、国内客は減少したものの外国客の増加により、入域観光客全体としては前年並の高い水準となり、1月としては過去2番目の記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については、マスコミによるプロ野球キャンプなどの報道によって沖縄の露出拡大が図られることや、コンベンションや修学旅行による増加が見込まれることなどにより、前年を上回る実績で推移するものと思われるものの、海外旅行の需要回復や円高傾向による海外リゾート地との競合の激化などにより伸び率は鈍化するものと思われる。

外国客については、空路は上海路線の増便により増加が見込まれ、海路については、昨年は5月からであったクルーズ船の運航が2月以降も予定されていることから、外国客全体としても増加が見込まれる。

この結果、国内客、外国客ともに増加が見込まれ、入域観光客数については当面は好調に推移するものと思われる。

担当：観光企画課 久保田
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 海外旅行の需要回復や旅行ニーズの多様化などにより入域観光客数の減少となった。
- プロ野球のキャンプ、桜の開花、国立劇場おきなわのオープン等メディアによる露出が拡大しており、集客状況が好転している。

大阪事務所 (阪神地区)

- 1月の減少要因としては、年始の日並びが悪かったこと、暖冬により沖縄への関心が鈍ったこと、国内旅行商品の多様化による分散が挙げられる。
- エージェントの2～4月の動向は対前年比120%前後となっている。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- SARS再発や鳥インフルエンザの流行で、アジア旅行から沖縄旅行への振り替えが多く発生したことや、格安オフ期を選択する消費マインドが相まって、昨年末からの低調傾向に歯止めをかけた。
- 今後の見通しは、沖縄ブームがやや弱くなっていると言われるものの、SARS再発や鳥インフルエンザ流行による振り替えで、予約状況は好調である。一方、円高が進む中、海外リゾート地との競合は厳しくなるものと思われる。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 1月は年始の日並びの関係もあり、昨年より減少した。エージェントによると、石垣島と本島の一部リゾートのみが好調で、全体的には落ち込んでいるとのことであった。
- 2月はプロ野球キャンプの報道が例年以上に多く、予約状況は良好である。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 1月は、大雪の影響で直行便が2日間欠航となったため前年を下回った。
- 直行便の需要全体としては、搭乗率が90%を越えており、当面は好調に推移する見込みである。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 本年は、台湾の旅行シーズンとなる春節 (旧正月) が1月となったため、台湾籍入域観光客数は大幅に増加した。また、海路での入域客についても6回の定期クルーズ船の寄港があり、2千人近い旅客の来沖があった。
- SARS再発や鳥インフルエンザに対する警戒から、しばらくは旅行目的地の選択は清潔イメージのある日本へ若干のシフトが続くものと思われる。

韓国事務所 (韓国地区)

- 1月は、冬場のゴルフの魅力がある程度定着し、一般のパッケージ商品も順調に販売されたことにより、前年を上回った。
- 沖縄への送客は、ゴルフやパッケージ商品がうまく販売されており、旅行会社がハンドリングしている2月の予約状況も好調で、前年同期の実績は達成できる見込みである。

入域観光客統計概況

－平成16年2月分－

沖縄県観光リゾート局

2月の入域観光客数は436,300人。前年同月比は+9.2% (+36,900人)で、同月の過去最高記録となった。

1～2月の累計入域観光客数は、815,500人。前年同期比は+4.7% (+36,300人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 空海路別入域状況

空路：431,100人 前年同月比 +8.7% (+34,600人)

海路：5,200人 前年同月比 +79.3% (+2,300人)

2. 主要航路別入域状況

東京：195,600人 前年同月比 +11.0% (+19,400人) 構成比 44.8%

阪神：77,800人 前年同月比 +5.0% (+3,700人) 構成比 17.8%

福岡：58,800人 前年同月比 +9.5% (+5,100人) 構成比 13.5%

名古屋：36,300人 前年同月比 +7.1% (+2,400人) 構成比 8.3%

3. 概況と見通し

2月の入域観光客数の概況としては、国内客については、プロ野球キャンプの効果の拡大や沖縄芸能・文化への全国的な関心の継続、修学旅行の増加等により大幅な増加となった。特に主要航路である東京航路、福岡航路では全体を上回る高い伸び率となった。

外国客については、前年は運航がなかった台湾からのクルーズ船が運航されたことにより海路が大幅に前年を上回り、また、空路についても前年並みの実績となったことから、外国客全体としては前年を大幅に上回った。

この結果、入域観光客は前年を大きく上回り、2月として初めて40万人台を突破し、単月の過去最高記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については、キャリアやエージェントによる沖縄キャンペーンが始まることや沖縄芸能・文化への全国的な関心が定着しつつあること、修学旅行などで増加が見込まれること等により、前年を上回る実績で推移するものと思われる。しかし、一方では、海外旅行の需要回復や円高傾向による海外リゾート地との競合の激化などの懸念材料が挙げられる。

外国客については、空路は上海路線の増便により増加が見込まれ、海路については、昨年は5月からであったクルーズ船の運航が3月末から開始されることから、外国客全体としても増加が見込まれる。

この結果、国内客、外国客ともに増加が見込まれ、入域観光客数については当面は好調に推移するものと思われる。

担当：観光企画課 久保田

TEL 098-866-2763

FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- マスメディアによる、暖かい沖縄や健康等を素材とした露出拡大が、好影響を与えている。
- キャリアによるキャンペーン効果が期待され、予約状況も好調である。

大阪事務所 (阪神地区)

- 癒しや食材、音楽、伝統芸能等の素材を備えた観光地として沖縄ブランドが定着したことや、プロ野球キャンプ (阪神) の効果により、増加となった。
- 今後も、安定した沖縄ブームの継続や景気の回復、航空機材の大型化等により、前年並みは維持できるものと思われる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 2月の増加要因としては、景気の回復や旅行社が周遊型及び体験型の個人パッケージ商品を積極的に販売したこと、鳥インフルエンザの流行による中国・アジア旅行の敬遠などが挙げられる。
- 今後の見通しとしては、国内団体割引運賃の値上げや海外リゾート地との競合により先が読めない状況にあるものの、旅行社の予約状況は前年を上回っているようである。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 2月はプロ野球キャンプや国立劇場おきなわなどがマスコミに取り上げられたこともあり、順調な伸びを示した。また、冬期も引き続きジャンボが就航したことにより、提供座席数が増えたことも増加の要因である。
- 今年のゴールデンウィークは日並びが良く、予約状況は好調。GWが好調なので、その前後は動きが鈍いとのことである。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 2月の好調要因としては、鳥インフルエンザ等によるアジアの回復の遅れや、メディアでの沖縄の露出の高さが影響しているものと思われる。
- 3月後半やGWについては、商品価格が高くなっているため予約状況はあまり伸びていないが、4月前半までは昨年同様の実績となる見込みである。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 本年は、春節 (旧正月) が1月であったため、空路での来沖者数は若干の減少となったが、去年は運休していたクルーズ船が2回寄港したため、全体としては10%程の増加となった。
- 旅行マインドは総統選挙により一時的に冷え込んでいるが、すぐに回復するものと思われる。ただし、航空座席と宿泊ホテルの確保の問題は依然として残っている。

韓国事務所 (韓国地区)

- 2月の増加要因としては、航空機の大型化により提供座席数が増加したことや、ゴルフやハネムーンが順調に送客できたことが挙げられる。
- 3月以降はオフシーズンとなる上、鳥インフルエンザや選挙などにより伸び悩むものと思われるが、3月末から70名のインセンティブツアーが決定していることなどにより、前年並みの実績は確保できる見込みである。

入域観光客統計概況

－平成16年3月分－

沖縄県観光リゾート局

3月の入域観光客数は486,500人。前年同月比は+1.8% (+8,700人)で、同月の過去最高記録となった。

- ・1～3月の累計入域観光客数は、1,302,000人
- ・前年同期比は +3.6% (+45,000人)

1. 空海路別入域状況

空路： 480,700人 前年同月比 +1.7% (+8,000人)
海路： 5,800人 前年同月比 +13.7% (+700人)

2. 主要航路別入域状況

東京	211,300人	前年同月比	△ 0.8% (△1,800人)	構成比	43.4%
阪神	93,100人	前年同月比	+ 1.0% (+900人)	構成比	19.1%
福岡	63,000人	前年同月比	+ 9.0% (+5,200人)	構成比	13.5%
名古屋	44,100人	前年同月比	+ 6.8% (+2,800人)	構成比	9.1%

3. 概況と見通し

3月の入域観光客数の概況としては、国内客については、主要航路では東京航路が減少したものの、修学旅行生の増加や、沖縄芸能・文化への全国的な関心の継続などにより入域観光客数は前年同時期より増加した。

外国客については、昨年は5月から運行していた定期クルーズ船が今年は3月にも寄港したことにより、前年を上回る実績となった。

以上のことから、入域観光客数は前年の実績を上回り、同月の過去最高記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については、景気の回復による個人消費の伸びが期待できることや、ゴールデンウィークの沖縄方面の予約状況が好調であること、夏場に向けてキャリアやエージェントによる積極的な販促活動が期待されること等により増加が見込まれる。しかし、その一方で、九州新幹線の開通による影響や、回復基調にある海外リゾート地との競合が懸念される。

外国客については、定期クルーズ船の寄港回数が昨年より増加する予定であることから、海路による増加が見込まれる。

この結果、国内客、外国客ともに増加が見込まれ、入域観光客数については当面は好調に推移するものと思われる。

担当：観光企画課 上原
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 昨年同時期に比べ、パッケージ商品の価格が値上がりしたことにより若干減少したと予想されるものの、個人フリープランなどの需要は堅調に推移している。

大阪事務所 (阪神地区)

- 海外情勢の悪化、沖縄本島・離島ブームが好調を維持していることや、キャリア、エージェントが強力な売り込みを展開したこと、卒業旅行など若年層を中心とした個人フリープラン型旅行の伸びなどが入域増につながった。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 景気の回復や鳥インフルエンザの影響による中国及びアジア旅行の敬遠、各旅行代理店による積極的な販促活動が増加の原因と考えられる。
- 今後は、国内団体旅行割引運賃の値上げや九州新幹線の開通、回復基調にある海外リゾート地との競合等が予想されるが、ゴールデンウィークの予約状況も好調であり、旅行代理店の積極的な販促活動もあるため、当面は好調に推移するものと考えられる。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- キャリア系が好調に推移したことにより増員となった。
- ゴールデンウィークは日並びが良いため予約状況は好調であり、臨時便も出るなどかなりの伸びが期待できる。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 旅行代理店などの情報によると、直行便の実績は減少しているが、経路便を含めた全体の状況は好調のようである。
- 曜日配列の良さや、消費者の沖縄への関心の高さが続いていることにより、ゴールデンウィークの実績は前年を上回る見込みである。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 台湾の総統直接選挙の影響による海外旅行マインドの冷え込みにより、空路での来沖者数は減少となった。海路については、定期クルーズ船の再開により昨年比では微増となった。
- 航空路線については、沖縄経由上海便の航空チケットが他地域経由よりも安価で販売されていることもあり、予約状況は好調である。海路についても、クルーズに最適な季節を迎えたこともあり、予約状況は良いとのことである。

韓国事務所 (韓国地区)

- 3月以降はオフシーズンを迎えることから、旅行市場の冷え込みが予想されていたが、ハネムーンやインセンティブツアーによる送客があり、前年並みの実績を維持した。
- 総選挙後の予約率は改善されているが、沖縄への送客については引き続き苦戦することが予想される。

入域観光客統計概況

－平成16年4月分－

沖縄県観光リゾート局

4月の入域観光客数は418,500人。前年同月比は+13.7% (+50,500人)で、4月としては初めて40万人を突破し、同月の過去最高記録となった。

- ・1月～4月までの入域観光客数は1,720,500人。
- ・前年同期比は+5.9%(+95,500人)。

1. 空海路別入域状況

空路：406,600人 前年同月比 (+42,600人 +11.7%)
海路：11,900人 前年同月比 (+7,900人 +197.5%)

2. 主要航路別入域状況

東京：177,800人 前年同月比 (+16,900人 +10.5%) 構成比43.6%
阪神：80,300人 前年同月比 (+9,100人 +12.8%) 構成比18.6%
福岡：54,600人 前年同月比 (+6,600人 +13.8%) 構成比13.4%
名古屋：33,200人 前年同月比 (+1,800人 +5.7%) 構成比8.5%

3. 概況と見通し

4月の入域観光客数の概況としては、国内客においては、修学旅行性の増加やコンベンションの開催、沖縄芸能・文化への全国的な関心の継続に加え、大型連休の日並びの良さなどの要因により、入域観光客数は昨年同時期より増加した。

外国客においては、海路においては、昨年は5月からであった定期クルーズ船の運行が3月末から開始され、各週1回運行されたことにより、対前年比を大幅に上回り、平成14年同月の実績近くまで回復している。

以上のことから、入域観光客数は前年の実績を上回り、同月の過去最高記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については、景気の回復による旅行需要の伸びや、夏場に向けてのキャリアやエージェントによる積極的な販促活動が見込まれること、修学旅行生の増加が見込まれることにより増加が見込まれる。しかし、その一方で旅行需要が回復基調にある海外リゾート地との競合が予想される。

外国客については、定期クルーズ船の運行回数が昨年より増える予定であることから、海路による増加が見込まれる。

この結果、国内客、海外客ともに増加が見込まれ、入域観光客数は当面は好調に推移するものと思われる。

担当：観光企画課 上原
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- エージェント独自のシーズンオフ対策として沖縄キャンペーンの実施や、食文化、芸能への消費者の沖縄に対する関心が続いたことにより入域観光客増につながった。
- キャリアやエージェントによる積極的な販売活動や離島志向の高まりにより、個人フリープランの予約状況は好調に推移している。

大阪事務所 (阪神地区)

- 中学校の修学旅行の増加や、大型連休の日並びの良さ、スローフード、スローライフ等の指示による沖縄人気などにより入域増につながった。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 景気の回復基調に伴う観光市場全体の改善や、健康ブームを背景としたメディアへの露出拡大、各旅行代理店の積極的な販促活動、旅行形態が「高・遠・長」化する傾向の中、安全性の高い沖縄の人気が高いこと等の要因により入域増となった。
- マリン系の観光やレジャーへの人気が高まっており、今後5月～7月についても好調に推移するものと予測される。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 4月から航空会社のレートに変更があり、旅行商品の販売価格が2千円～5千円程度値上がりしたが、沖縄人気が続いているためか、入域者数は大きな伸びを見せた。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 直行便では前年並みとなっているが、経由便を含めた全体では対前年同月比でプラスと好調に推移しているようである。道内では観光全体の需要が高くなっているようである。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 総統直接選挙後の混乱が収まり旅行需要が急激に回復を見せている。
- 定期クルーズ船の運行により海路による来沖は大幅な増加となっているが、航空路線については沖縄経由上海行の航空便が他地域経由より安価で販売されているため、航空便が満席でも沖縄への入域増にはつながらないという状況が続いており、座席の供給数の増加が課題となっている。

韓国事務所 (韓国地区)

- 沖縄への送客は対前年同月比で大幅に減少している。景気の低迷等が主な原因だと考えられており、今後も同様の傾向が続く見通しである。

入域観光客統計概況

－平成16年5月分－

沖縄県観光リゾート局

5月の入域観光客数は395,000人。前年同月比は+13.3% (+46,300人)で、同月の過去最高記録となった。
・1月～5月までの入域観光客数は2,115,500人。
・前年同期比は+7.2%(+141,800人)。

1. 空海路別入域状況

空路：382,000人 前年同月比 (+40,600人 +11.9%)
海路：13,000人 前年同月比 (+5,700人 +178.1%)

2. 主要航路別入域状況

東京：155,400人 前年同月比 (+12,900人 +9.1%) 構成比39.3%
阪神：87,400人 前年同月比 (+15,000人 +20.7%) 構成比22.1%
福岡：51,200人 前年同月比 (+5,300人 +11.5%) 構成比13.0%
名古屋：28,700人 前年同月比 (+1,100人 +4.0%) 構成比7.3%

3. 概況と見通し

5月の入域観光客数の概況としては、国内客においては、大型連休の日並びの良さや修学旅行の増加、コンベンションの開催、沖縄芸能・文化への全国的な関心の継続などの要因により、主要航路である東京や阪神、福岡航路で大幅な入域増となり、前年同時期より増加した。

外国客においては、空路、海路ともに前年の実績を大幅に上回り、平成14年の実績の7割程度まで回復している。

以上のことから、入域観光客数は前年の実績を上回り、同月の過去最高記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については、回復基調にある海外旅行との競合やアテネオリンピックの開催に伴うテレビ放映等により旅行需要が低下することが予想されるものの、夏場の観光需要に対応し、キャリアやエージェントによる積極的な販促活動が展開されることや、離島志向の高まり等沖縄人気が続いていることから、増加が予想される。

外国客については、高雄-那覇間のチャーター便が6月から8月までに計13便運行予定であることから、空路による増加が見込まれる。

この結果、国内客、海外客ともに増加が見込まれ、入域観光客数は当面は好調に推移するものと思われる。

担当：観光企画課 上原
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 各エージェントとも独自の旅行商品に付加価値を付けて販売しており、こうした企業間競争の結果が入域観光客数の増加につながった。
- 東南アジア方面には回復の兆しがあるものの、国内において沖縄は好調であり、離島地域は特に好調である。

大阪事務所 (阪神地区)

- 修学旅行の伸びが特に5月に著しかったことや、メディアへの露出等による認知度の高まり、健康食品や沖縄音楽など沖縄の文化に対する人気が依然として続いていることなどの要因により入域増につながった。
- 沖縄観光のトップシーズンに入ることもあり、各エージェントとも前年以上の送客の見通しである。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 景気の回復や沖縄人気、沖縄の特色ある気候を活かした周遊型、フリープラン型のパッケージ商品が積極的に販売されたことにより入域増につながった。
- 7月～8月にかけては、参議院選挙やアテネオリンピック等の影響により市場の動きが鈍化することが予想されるが、マリン系レジャーの人気とともに沖縄人気は持続しており、引き続き好調に推移するものと思われる。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- ゴールデンウィークの日並びが良かったことにより増加している。
- 提供座席数の増加によりANA便の利用者が増え、前年より20%増となっている。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 6月から8月まで直行便が運休することや、道内の季節要因から沖縄の旅行需要は減少に向かうことが予想される。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 旅行マインドの上昇等により一昨年並の入域者数にまで回復した。
- 海路では定期クルーズ船の販売が好調であり、9月までの予約状況も好調である。空路においては、高雄－那覇間のプログラムチャーター便の運行により台湾南部の旅客にとっては乗り換えの必要がなく、来沖の利便性が高くなる。

韓国事務所 (韓国地区)

- ほとんどの旅行社で低価格商品の販売に取り組んだものの、景気の低迷や韓国ウォン貨価値下落等の影響により海外旅行需要が落ち込んでいるため、前年の実績を下回ることとなった。
- ハネムーンに関しては一定の実績を維持しており、5月は単月で30組60人を送出ししている。なお、5月までの累計は54組108人である(ソウル所在主要旅行30社の実績による)。

入域観光客統計概況

－平成16年6月分－

沖縄県観光リゾート局

6月の入域観光客数は381,200人。前年同月比は+5.8% (+21,000人)で、同月の過去最高記録となった。
・1月～6月までの入域観光客数は2,496,700人。前年同期比は+7.0%(+162,800人)で、同期間の過去最高記録となった。

1. 空海路別入域状況

空路：367,400人 前年同月比 (+10,100人 +2.8%)
海路：13,800人 前年同月比 (+10,900人 +375.9%)

2. 主要航路別入域状況

東京：167,400人 前年同月比 (-1,000人 -0.6%) 構成比43.9%
阪神：74,800人 前年同月比 (+4,500人 +6.4%) 構成比19.6%
福岡：46,900人 前年同月比 (-1,000人 -2.1%) 構成比12.3%
名古屋：30,400人 前年同月比 (+1,400人 +4.8%) 構成比8.0%

3. 概況と見通し

6月の入域観光客数の概況としては、国内客については、沖縄人気の継続や、離島志向の高まりにより本土－離島直行便が好調に推移したこと等の要因により、国内客全体としては前年同月の実績を上回った。

外国客においては、SARSやイラク戦争の影響を受けて低迷した昨年同時期と比較すると対前年比で大幅な増加となっており、特に海路においては、平成14年6月の実績と比較しても+18.2%と大幅に増加するなど、外国客総数でも3.5%の増加となっている。

以上のことから、入域観光客数は前年の実績を上回り、同月の過去最高記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については、夏休み期間の予約状況が好調なことや、10月から12月にかけての修学旅行生の入込人数が昨年より増加する予定であることから、引き続き増加することが予想される。

外国客については、空路については高雄-那覇間のチャーター便の運航期間の延長や、台北-那覇間の臨時便の運航が好影響を与えることが予想される。海路については、定期クルーズ船の予約状況が好調であることから今後も増加することが予想される。

この結果、国内客、外国客ともに増加が見込まれ、入域観光客数は当面は好調に推移するものと思われる。

担当：観光企画課 上原
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 昨年6月は海外からの振り替え需要が好影響を与えたが、今年はその反動から昨年を若干下回る結果となった。
- 国内旅行では沖縄が好調であり、8月はホテルの部屋が不足している状況である。

大阪事務所 (阪神地区)

- スローライフ、癒しを求める消費者から支持されたことにより入域増となった。本島、離島ともに人気が高く、ファミリー層を中心に引き続き好調を維持する見通しである。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 好調な海外旅行との競争や、全九州高校体育大会の開催、福岡県内で開催されるイベントの準備期間であることなどの要因により入域減となった。
- 7月から9月の九州・福岡の観光市場は、国内外の旅行商品ともに好調に推移するものと予測されており、沖縄への予約状況も7月中旬までは好調である。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- JAL便については、前年に比べ便減っているため乗客が減少している。一方、ANAについては、割引の実施などにより利用者が増加しており、今回の増客につながった。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 北海道発の旅客数については、他地域と比較すると沖縄だけが好調のようであるが、その要因の一つとして、TV等による沖縄の露出が高いことが考えられる。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- クルーズ船の販売状況は秋口まで好調である。
- 高雄-那覇間のプログラムチャーター便が6月下旬から開始されたことにより、これまで特に席のとりにくかった台湾南部地域の利用者の利便性は増したが、上海への乗り継ぎ客の増加に伴い、依然として座席は供給不足の状態が続いている。
- 7月からは台北-那覇間の臨時便も予定されているが、入域客の増加につなげるためには、航空路線の拡充が必要である。

韓国事務所 (韓国地区)

- 沖縄への送客は、パッケージ商品等の販売が142人、ハネムーンでの送客は11組22人となった (ソウル所在主要旅行社30社の実績による)。
- 商品価格の面でゴムやハワイ、東南アジア方面と比べて競争力が弱いことや、リゾートホテルの確保が困難なため、集客に苦戦している。

入域観光客統計概況

－平成16年7月分－

沖縄県観光リゾート局

7月の入域観光客数は445,400人。前年同月比は△1.3% (△5,900人)で、同月の過去2番目の記録となった。
1月～7月までの入域観光客数は2,942,100人。前年同期比は+5.6%(+156,900人)となった。

1. 空海路別入域状況

空路：433,600人 前年同月比 (△4,100人 △0.9%)
海路：11,800人 前年同月比 (△1,800人 △13.2%)

2. 主要航路別入域状況

東京：209,000人 前年同月比 (△1,700人 △0.8%) 構成比46.9%
阪神：84,300人 前年同月比 (△800人 △0.9%) 構成比18.9%
福岡：54,900人 前年同月比 (+900人 +1.7%) 構成比12.3%
名古屋：33,600人 前年同月比 (△2,700人 △7.4%) 構成比7.5%

3. 概況と見通し

7月の入域観光客数の概況としては、国内客については、海外旅行との競合や主要航路である阪神、名古屋航路の提供座席数の減少、オーバードッキングへの慎重な対応などの要因により前年同月の実績を下回った（平成15年同月は対14年同月比+13.8%の大幅増）。

外国客については、高雄－那覇間のプログラムチャーター便の運航や台北－那覇間の臨時便の運航等により提供座席数が増加したこと、世界武道祭の開催などの理由により昨年の実績を上回った。

以上のことから、7月の観光客数は前年同月の実績を下回り、同月の過去2番目の記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については、8月中旬から名古屋－石垣間にチャーター便が運航していることや、同月下旬には平成16年度国民体育大会九州ブロック秋期大会の開催が予定されていること、10月から12月にかけての修学旅行の予約状況が前年の実績を上回っていること等により増加が見込まれる。

外国客については、空路においては、高雄－那覇間のプログラムチャーター便や台北－那覇間の臨時便の運航により入域客が増加することが予想される。

この結果、国内客、外国客ともに増加が見込まれ、入域観光客数は当面は好調に推移するものと思われる。

担当：観光企画課 上原
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

○昨年は海の日を含めた3連休が夏休み期間中であったが、今年は夏休み前であったことや、価格も高く設定されていたことから昨年の実績を下回ることとなったが、夏の旅行商品は全体的に好調に推移しており、8月は対前年比10%増となる見通しである。

大阪事務所 (阪神地区)

○海外旅行需要が回復し、海外旅行へのシフトが見られたことにより入域減となった。

○離島人気の継続や修学旅行生の増加などにより、今後は増加傾向で推移するものと思われる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

○九州・福岡の旅行市場の概況としては、ハワイやグアムをはじめ、旅行需要の回復が見られる中国や東南アジア方面、一躍ブームとなった韓国などへの海外旅行が増加する傾向にある。

○そのような状況の中、景気の回復による旅行市場全体の活性化が沖縄への入域にも好影響を与えたことや、メディアへの露出効果などの要因により入域増となった。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

○航空機の提供座席数の減少や、航空運賃の下限値の値上がりの影響などにより入域減となった。

○8月は家族旅行などの予約状況が順調であり、この傾向は沖縄に限らず北海道や海外方面にも見られることから、景気の回復感が見られる。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

○道内の旅行需要の冷え込みの影響からか、7月の沖縄への旅行者は減少したようであるが、8月は概ね前年並みとなる予定である。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

○空路においては、高雄から9便、台北から7便の計16便のプログラムチャーター便が運航されたことにより入域観光客の大幅な増加となった。

○海路においては、定期クルーズ船が好調な販売を維持している。

韓国事務所 (韓国地区)

○7月の韓国からの出国者は約82万9千人となり、対前年同期比22.4%増加しているが、主な旅行先はヨーロッパや太平洋地域及び中国や東南アジア地域であり、沖縄は他地域と比べて料金面での競争力が弱い。

○沖縄への送客はパッケージによる送客が145人、ハネムーンは4人となっている (ソウル所在主要旅行社30社の実績による)。

入域観光客統計概況

－平成16年8月分－

沖縄県観光リゾート局

8月の入域観光客数は523,400人。前年同月比は△1.5% (△8,200人)で、同月の過去2番目の記録となった。

1月～8月までの入域観光客数は3,465,500人。前年同期比は+4.5%(+148,700人)となった。

1. 空海路別入域状況

空路：513,100人 前年同月比 (△1,900人 △0.4%)
海路：10,300人 前年同月比 (△6,300人 △38.0%)

2. 主要航路別入域状況

東京：239,600人 前年同月比 (+5,300人 +2.3%) 構成比45.8%
阪神：106,600人 前年同月比 (△2,200人 △2.0%) 構成比20.4%
福岡：63,700人 前年同月比 (+200人 +0.3%) 構成比12.2%
名古屋：43,600人 前年同月比 (△2,400人 △5.2%) 構成比8.3%

3. 概況と見通し

8月の入域観光客数の概況としては、国内客については、初旬の航空乗客輸送実績が前年同月比+3.4%と好調に推移したものの、中旬以降4回襲来した台風の影響により離島への入域客が減少したことなどにより、空路については対前年同月比0.5%、海路については21.9%減少し、国内客全体としては前年実績を若干下回ることとなった。

外国客については、空路における入域者数は微増であったものの、台風の影響による定期クルーズ船の欠航などにより、外国客全体としては前年同月と比較して28.7%減少した。

以上のことから、国内客、外国客ともに減少し、全体としては昨年同月の実績を若干下回ることとなった。

今後の見通しとしては、9月上旬に襲来した台風の影響が懸念されるが、10月以降については、修学旅行の予約状況が好調であることや、メディアへの露出効果、離島人気の継続などにより増加することが見込まれる。

外国客については、空路については臨時便の運航などにより昨年より増加することが予想されるが、海路については、定期クルーズ船の運航予定回数が昨年の寄港回数より少ないことなどから前年実績を下回ることが見込まれる。

この結果、国内客については増加、外国客については微減が予想され、入域観光客全体としては増加することが見込まれる。

担当：観光企画課 上原
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

○キャリアやエージェントによる沖縄旅行商品の積極的な販促活動の展開及び航空座席数の増加が旅行需要を喚起し、入域観光客数の増加につながった。

大阪事務所 (阪神地区)

○台風による欠航や台風接近による旅行控え、過剰予約に対する慎重な対応、浜名湖花博や、大河ドラマ効果による京都ブーム等他地域との競合などが要因となり入域減となった。

福岡事務所 (九州・山口地区)

○8月の九州・福岡の観光市場の動向としては、国内団体旅行は減少傾向にあるものの、景気の回復や海外旅行の大幅な回復などの要因から市場全体としては好調であった。

○沖縄への送客については、平成16年度国民体育大会九州ブロック秋期大会の開催や旅行代理店による積極的な販促活動などの要因により前年並みの実績を確保している。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

○航空機の提供座席数減少の影響により、入域者数は昨年より減少しているものの、座席数に比べ入域者数の減少率が低いことなどを勘案すると、今年の夏休みも沖縄人気が続いていたと考えられ、特に家族向けの旅行商品は好調であった。

○9月以降も全国的な沖縄人気が続くと考えられ、NHKテレビ番組「ちゅらさん3」放映の効果も期待できることなどから、入域観光客数は増加すると考えられる。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

○8月の状況としては前年同月並みというところであるが、道内の旅行需要が全体的に低下していることを考えると、沖縄方面は善戦したとの見方がされている。

○9月から再開された直行便の状況としては、価格が安くなる中旬以降は好調に推移している。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

○台風の襲来により航空便と定期クルーズ船の運航に影響が出たことが入域客減少の大きな要因となった。

○SARSが沈静化した昨年同時期と比較して消費者の動きが鈍化していることや、旧暦の7月は旅行を控える習慣があるなど旅行需要の冷え込みも影響していると考えられる。

韓国事務所 (韓国地区)

○沖縄への送客は、パッケージツアーやハネムーンなど合わせて18件143人となっており、家族連れなど小規模のグループ旅行については着実に定着している(ソウル所在主要旅行社30社の実績による)。

○10月下旬～11月初めにかけて、韓国の大手企業が140人ほどのインセンティブツアーを企画している。

入域観光客統計概況

－平成16年9月分－

沖縄県観光リゾート局

9月の入域観光客数は457,800人。前年同月比は△7.1% (△35,200人)で、同月の過去2番目の記録となった。
1月～9月までの入域観光客数は3,923,300人。前年同期比は+3.0% (+113,500人)となった。

1. 空海路別入域状況

空路：450,100人 前年同月比 (△33,300人 △6.9%)
海路：7,700人 前年同月比 (△1,900人 △19.8%)

2. 主要航路別入域状況

東京：217,500人 前年同月比 (△13,100人 △5.7%) 構成比47.5%
阪神：87,300人 前年同月比 (△5,500人 △5.9%) 構成比19.1%
福岡：56,900人 前年同月比 (△2,400人 △4.0%) 構成比12.4%
名古屋：35,200人 前年同月比 (△4,400人 △11.1%) 構成比7.7%

3. 概況と見通し

9月の入域観光客数の概況としては、国内客については、上旬と下旬に2度接近・上陸した台風の影響により、空路においては対前年同月比△7.1% (△33,800人)、海路においては△20.5% (△800人)減少し、国内客全体としては前年実績を下回ることとなった。

外国客については、空路による入域客は増加したものの、海路においては定期クルーズ船の寄港回数が前年より少なかったことや、台風による欠航もあったことから前年実績を下回ることになった。

以上のことから国内客、外国客ともに減少し、入域観光客全体としては前年同月の実績を下回り、同月の過去2番目の記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については、海外旅行との競合や台風の影響が懸念されるものの、修学旅行の入込予定数が前年実績を上回る予定であることや、全国的な沖縄人気が続いていることから増加が見込まれる。

外国客については、空路においては、高雄－那覇間のプログラムチャーター便が10月末で運航終了することや、海路においては定期クルーズ船の運行予定回数が昨年の寄港回数を下回ることから若干の減少が見込まれる。

以上のことから、懸念材料はあるものの、外国客の落ち込みを県外客がカバーし、入域観光客全体としては増加することが見込まれる。

担当：観光企画課 上原
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 9月中旬以降はピーク時に比べて旅行商品の価格が下がったこともあり、好調に推移したが、度重なる台風接近により多くのキャンセルが発生し、昨年実績を下回った。
- 10月～12月は修学旅行の予約が前年を上回っているが、個人旅行商品の動きが弱い。

大阪事務所 (阪神地区)

- 9月5日～7日の台風19号の影響や、日帰り・低価格の旅行商品の伸びにより旅行先が分散されたことなどの要因により入域減となった。
- 10月以降は、高校の修学旅行シーズンであることや、熟年層、職場旅行が好調に推移する見込みであることから、特に大きなマイナス要因が発生しない限り前年実績を維持するものと思われる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 景気の回復や海外旅行の増加により九州・福岡の旅行市場は全体的に好調に推移しているが、沖縄への入域については、海外旅行との競争の激化や2度の台風の影響により前年実績を下回ることとなった。
- 10月以降は、人気の紅葉ツアーなど国内他目的地や海外旅行との競合など、沖縄観光にとって厳しい状況が予想されることから、10月中旬にはJTB九州営業本部などと連携し、沖縄観光をPRする販促キャンペーンを実施した。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 台風の来襲や提供座席数の減少により入域減となった。
- 航空運賃の下限価格が値上がりしたことと、9月前半は旅行商品の料金設定が高いことから大幅減も予想されたが、沖縄人気の継続により減少幅は小さい。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 9月の減少要因は、台風により欠航が4便あったことと、上旬の旅行商品の価格が同月中旬以降と比較して約10～20%割高であったため伸び悩んだことなどが挙げられる。
- 10月～11月は修学旅行が好調である。また、JALの北海道～沖縄直行便が来年1月に就航20周年を迎えることから、今年12月から来年の3月まで道内12の旅行代理店による「冬の沖縄キャンペーン」が展開される予定である。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 高雄～那覇間のプログラムチャーター便の運航があったにもかかわらず、夏休みの終了や旅行などを控える「鬼月」の風習、台風の影響により空路が1便、定期クルーズ船についても1回運休となったことから昨年並みの実績にとどまった。

韓国事務所 (韓国地区)

- 盆休み期間が5日間あったことや、沖縄からのチャーター便運航で座席供給が良くなったことにより入域増となった。
- ハネムーンの予約が好調であることや、大手企業のインセンティブツアーが予定されていることから、10月以降の送客については前年実績を上回る見込みである。

入域観光客統計概況

－平成16年10月分－

沖縄県観光リゾート局

10月の入域観光客数は429,200人。前年同月比は△3.7% (△16,300人) で、同月としては過去2番目の記録となった。
1月～10月までの入域観光客数は4,352,500人。前年同期比は+2.3% (+97,200人) となった。

1. 空海路別入域状況

空路：421,200人 前年同月比 (△15,600人 △3.6%)
海路：8,000人 前年同月比 (△700人 △8.0%)

2. 主要航路別入域状況

東京：202,800人 前年同月比 (△6,900人 △3.3%) 構成比 47.3%
阪神：72,300人 前年同月比 (△2,300人 △3.1%) 構成比 16.8%
福岡：51,900人 前年同月比 (△3,800人 △6.8%) 構成比 12.1%
名古屋：33,900人 前年同月比 (±0人 ±0.0%) 構成比 7.9%

3. 概況と見通し

10月の入域観光客数は、全国各地に大きな被害をもたらした台風23号や新潟中越地震など相次ぐ自然災害の影響により、国内客、外国客ともに前年実績を下回る結果となった。

今後の見通しとしては、国内客については、修学旅行の増加やコンベンションの開催による増加が見込まれるものの、海外旅行との競合激化や11月上旬の航空輸送実績が大幅に減少していることなどが懸念材料として考えられる。

外国客については、昨年は12月まで運航したクルーズ船が今期は10月で終了したことなどにより、前年をやや下回るものと思われる。

以上のことから、入域観光客全体としては、前年並みかやや弱含みで推移するものと思われる。

※ 525万人の年間目標を達成するためには、11月～12月で前年同期比8.1%の増加が必要となる。

担 当：観光企画課 久保田
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 個人旅行商品はおおむね前年並みで推移したが、団体客については、海外旅行が回復しつつあることなどにより、入域客が減少した。
- 今後、修学旅行、団体旅行商品は順調に推移しているものの、旅行市場の動きが鈍いこともあり、沖縄も11～12月の予約が前年比90%に届いていない。

大阪事務所 (阪神地区)

- 台風23号による欠航と台風情勢に伴う旅行控えにより、入域客が減少した。
- 11～12月の航空会社予約状況が前年比20%増であり、沖縄プランは全体的に好調である。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 修学旅行や一般団体旅行が堅調に推移したものの、ピーク時の台風襲来が大きな要因となり、大幅な減少となった。
- 一般団体やパーソナル型の商品は前年並みに推移するものの、冬期の主流であるエスコート型メディア商品の伸び悩みから、全体的に厳しい状況である。
- エスコート型商品の低迷は、目新しい観光素材や観光対象が見当たらないので、特徴ある商品が作りづらく、かつ各旅行代理店の商品に特徴がないことが主な要因となっている。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 台風による取り消しがあったため、周遊型旅行が伸び悩んだものの、個人型旅行は引き続き順調であったため、前年と変わらない実績となった。
- 11月以降は修学旅行が増え、周遊型旅行も戻ることで予想される。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 10月の減少要因としては、札幌圏の気温が平年より高かったため、沖縄へ消費者の目が向かなかつたことや、台風の発生により敬遠されたことが挙げられる。
- 12月から来年3月まで、JAL直行便就航20周年「冬の沖縄キャンペーン」が展開され、2月末から3月は運航器材が大型化される。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 旅行シーズンがオフになったことや台風の影響により、入域客の減少となった。
- 台湾からの定期クルーズ、高雄からのプログラムチャーター便ともに10月で今期の運航が終了となった。次回は、来年の春節(旧正)にプログラムチャーター便の運航が検討されている。

韓国事務所 (韓国地区)

- 沖縄への送客は、中国や東南アジアなどの低価格商品との競合が激化したものの、大手企業のインセンティブツアーなどにより増加した。
- 11月中はパッケージ商品の販売が鈍化しているものの、12月の集客は好調であり、増加が見込まれる。

入域観光客統計概況

－平成16年11月分－

沖縄県観光リゾート局

11月の入域観光客数は409,900人。前年同月比は△4.3% (△18,200人)で、同月としては過去2番目の記録となった。
1月～11月までの入域観光客数は4,762,400人。前年同期比は+1.7% (+79,000人)となった。

1. 空海路別入域状況

空路：406,900人 前年同月比 (△14,400人 △3.4%)
海路： 3,000人 前年同月比 (△3,800人 △55.9%)

2. 主要航路別入域状況

東京：184,000人 前年同月比 (△7,900人 △4.1%) 構成比 44.9%
阪神： 68,100人 前年同月比 (△3,100人 △4.4%) 構成比 16.6%
福岡： 59,000人 前年同月比 (△2,800人 △4.5%) 構成比 14.4%
名古屋：32,400人 前年同月比 (+100人 +0.3%) 構成比 7.9%

3. 概況と見通し

11月の入域観光客数は、昨年と比べ日並びが悪かったこと（昨年は3連休が2回→今年は0）や修学旅行の実施時期の変更、全国で相次いだ自然災害（台風・地震）の影響による旅行マインドの低下、昨年は12月まで運航があった海外クルーズ船が今年は運航が終了したことなどにより、国内客、外国客ともに前年実績を下回る結果となった。

今後の見通しとしては、国内客については、年末年始のDFS空港外店舗のオープンによる誘客効果や修学旅行の増加、官民による誘客キャンペーンの強化（JAL札幌路線20周年キャンペーン、JCBいこうよ！おいでよ！沖縄キャンペーン等）などにより増加が見込まれるものの、年末年始の日並びが悪いことや海外旅行との競合激化などが懸念材料として考えられる。

外国客については、昨年は運航があった台湾からのクルーズ船が今期は終了していることにより海路は減少が見込まれるものの、空路については、2月に韓国から7便、台湾から6便のチャーター便が予定されており、増加が見込まれる。

以上のことから、入域観光客全体としては、おおむね好調に推移するものと思われる。

担 当：観光企画課 久保田
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 11月は昨年と違い日並びが悪く、個人旅行商品の伸びが悪かった。
- 年末年始は休暇が短いので、国内旅行は近場志向の旅行が多く、沖縄への旅行は需要が期待できない。
- 新たに沖縄観光の魅力としてDFSのオープンにより、エージェントが積極的に商品造成に取り組んでおり、観光客の増加につながるものと期待される。

大阪事務所 (阪神地区)

- 海外、特にアジア方面が好調に推移していることや、秋の旅行シーズンに紅葉・温泉等の近場志向により、入域観光客の減少となった。
- 震災の影響による旅行の手控えも、減少の遠因の一つと思われる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 11月は、個人客は前年並みに推移したものの、一般団体、メディア商品等の不振から減少した。特に離島の周遊型の不振が響いたと考えられる。
- 12月の予約は、23～25日の連休と年末は好調であるが、全体的には前年並みの状況にある。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- フリー型、ツアー型ともに好調で昨年並みとなる。特にツアー型については、年配の方を中心に順調な伸びを示した。
- 12月以降は順調に推移している模様。ただし、暖冬のため避寒地としての沖縄がアピールしづらい懸念がある。2月のキャンプ観戦商品は好感触である。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 11月の減少要因は、道内の旅行需要全体の落ち込みと暖冬による避寒地需要の低迷などが挙げられる。旅行形態別では団体の需要が減少した模様である。
- 1月は、直行便就航20周年キャンペーンの影響もあり、団体旅行などの予約が入りつつあるが、海外旅行との競合により厳しい状況が続く見込みである。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 11月は、12月の立法院選挙が旅行マインドに影響したことや、今期の定期クルーズ船の運航が10月で終了したことにより、大幅に減少となった。
- 旅行シーズンとなる2月の春節時期に、台北から4便、高雄から2便のチャーター便の運航が予定されている。

韓国事務所 (韓国地区)

- 11月は相変わらず東南アジアの格安商品が旅行市場を主導し、沖縄は他地域との価格競争に勝てず、観光客の減少となった。
- 2月には、チャーター便7便の運航が予定されている。

入域観光客統計概況
－平成16年12月分－

沖縄県観光リゾート局

12月の入域観光客数は390,800人
前年同月比 △2.6% (△10,500人)
平成16年の入域観光客数は5,153,200人 (過去最高)
前年同期比 +1.3% (+68,500人)

1. 空海路別入域状況

空路：387,700人 前年同月比 (△7,300人 △1.8%)
海路：3,100人 前年同月比 (△3,200人 △50.8%)

2. 主要航路別入域状況

東京：177,400人 前年同月比 (△3,900人 △2.2%) 構成比 45.4%
阪神：68,700人 前年同月比 (△2,700人 △3.8%) 構成比 17.6%
福岡：50,100人 前年同月比 (△2,500人 △4.8%) 構成比 12.8%
名古屋：33,600人 前年同月比 (+900人 +2.8%) 構成比 8.6%

3. 概況と見通し

12月の入域観光客数は、修学旅行の増加などがあったものの、年末年始の日並びが悪かったことや、夏場に全国で相次いだ自然災害(台風・地震)の影響による旅行マインドの低下、昨年は運航があった海外クルーズ船が今年は運航が終了したことなどにより、国内客、外国客ともに前年実績を下回る結果となった。

今後の見通しとしては、国内客については、1月上旬の航空輸送実績が大幅に前年を上回っていることに加え、DFS空港外店舗のオープンによる誘客効果や本土からのチャーターツアーの増加(主催：農協観光、JTA便を利用)、官民による誘客キャンペーンの強化(JAL札幌路線20周年キャンペーン、JCBいこうよ!おいでよ!沖縄キャンペーン等)などにより増加が見込まれる。

外国客については、昨年は運航があった台湾からのクルーズ船が今期は予定されていないことにより海路は減少が見込まれるものの、空路については、2月に韓国から7便、台湾から6便のチャーター便が予定されており、増加が見込まれる。

以上のことから、入域観光客全体としては、おおむね好調に推移するものと思われる。

担当：観光企画課 久保田
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 修学旅行を中心とした団体客が好調に推移したが、年末年始休暇が短く近場志向であったため、沖縄への旅行需要が伸びなかった。
- 1月はメディア商品の販売が好調であり、昨年を上回る予約状況である。特に個人旅行の動きがよい。

大阪事務所 (阪神地区)

- メディア商品の売上げ不振と日並びの悪さにより、観光客数の減少となった。
- 今後の見通しとしては、3連休による旅行需要の喚起や卒業旅行シーズンに入ることなどから、前年並みの観光客数は維持できるものと思われる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 12月は、個人型フリープランは前年を上回ったものの、冬場の主力商品であるエスコート型商品及びメディア商品の不振から観光客数の減少となった。
- 今後の見通しとしては、国内外の自然災害による旅行マインドの低下が懸念されているものの、海外からの振り替えがほとんどない中、1月から2月の予約状況は好調に推移している。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 航空座席提供数の増加により、入域観光客数の増加となった。
- 2月のセントレア中部国際空港の開港に伴い、アクセスの利便性が向上することやJALの1便増加により、入域観光客数の増加が見込まれる。
- DFS沖縄がマスコミで大きく取り上げられたことにより、問い合わせが多くなっている。今後、エージェント用の資料等が必要となる。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 12月の減少要因は、直接的には悪天候による航空機の欠航があり、間接的には海外旅行の復調や暖冬による沖縄需要の低迷がある。
- 2月後半から3月まで、航空機直行便の提供座席数が2倍になることから、航空会社も販促に力を入れており、観光客数は増加に転じる可能性が高い。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 12月は初旬の選挙の影響を受け、旅行マインドが落ち込み、減少となった。
- 本年も、スタークルーズ社の沖縄クルーズは、4月から毎週各1回の石垣クルーズ、宮古-那覇クルーズ、公海クルーズが予定されている。

韓国事務所 (韓国地区)

- 12月は、景気の低迷により価格競争が激しく、沖縄への送客は減少した。
- 2月はチャーターツアー(6便)が運航され800人の送客が期待できる上に、3月はハネムーン客が伸びる見込である。